

41 アルミ付きのゴミを電気に変える



2017年07月29日放送

飲料パックやお菓子の袋、カップ麺のふたの裏側などを見ると、銀色に光って見える部分がある。これは、アルミだ。こうしたアルミの付いたゴミはリサイクルが難しく、ほとんどが焼却や埋め立て処分にされてきた。その量は家庭ゴミの実に20%にも達するという。

こうしたアルミの付いたゴミをなんとか有効活用したいと立ち上がったのが、運送会社の元事務職だった水木伸明（みずきのぶあき）さんだ。水木さんは、こうした家庭ゴミからアルミを取り出し、しかもそれを電気に変える発電装置の開発をリードした。しかし、ゴミの中から高純度のアルミを取り出す作業は、簡単にはいかなかった。打開策は、『乾留』（かんりゅう）という特殊な技術だった。この技術を使い、試行錯誤の末に水木さんたちは純度の高いアルミの取り出しに成功、発電に漕ぎ着ける。プロジェクトは順調に進み、水木さんたちは次の目標に邁進した。それは災害時に電源がなくても発電できるようにすることと発電装置をもっと小さくすることだった。そんな矢先、水木さんを病魔が襲うのだが…。